

令和07年 08月 08日 記者発表資料 特別展開催のお知らせ

特別展「手塚治虫展」

四日市市立博物館



©手塚プロダクション

1. 展覧会概要

◆展覧会名称

特別展「手塚治虫展」

◆会期

令和7年9月20日(土)～11月24日(月・振休)

休館日 毎週月曜日(祝休日の場合は翌平日)

午前9時30分から午後5時 (入場は午後4時30分まで)

◆会場

そらんぼ四日市(四日市市立博物館) 4階 特別展示室

〒510-0075 三重県四日市市安島一丁目3番16号

Tel.059-355-2700

◆観覧料

一般:1,000 円、高・大学生 600 円、中学生以下無料

◆主催等

主催:四日市市立博物館

後援(予定):中日新聞社、朝日新聞社、毎日新聞社、読売新聞社、伊勢新聞社、三重テレビ放送、三重エフエム放送、(株)シー・ティー・ワイ CTY-FM、NHK 津放送局

企画製作:株式会社手塚プロダクション

製作協力:東映株式会社

助成:公益財団法人 岡田文化財団

◆開催概要

17歳のデビューから60歳でこの世を去るまでの43年間、第一線の作家として活躍し続けた手塚治虫(1928-89)。「マンガの神様」と称される手塚の生み出した多様な作品や魅力的なキャラクターたちは、現在も日本はもとより世界中の人々から愛され続けています。子どもから大人までを対象とした幅広いジャンルの作品には、手塚が生涯問い続けた人間や生命の尊さに関わる深いテーマやメッセージが込められており、昭和・平成・令和という時代の移り変わりとともに、新たな事態に直面する現在においても普遍的な輝きを放っています。

本展は、マンガ家・手塚治虫誕生から「ジャングル大帝」「鉄腕アトム」「リボンの騎士」「火の鳥」「ブラック・ジャック」などの代表作を生み出した足跡を紹介するとともに、ストーリーマンガの確立、アニメーションへの挑戦など、多様な視点でその業績を振り返るものです。手塚が手がけたマンガの原稿、映像・資料・愛用の品々なども合わせて紹介することで手塚作品の歴史をたどります。公害を経験した四日市市で、手塚が未来へ託したメッセージを読み解きます。

◆広報文①(41字)

手塚治虫の生涯と業績を、手塚が生み出したキャラクターや作品などから紹介する展覧会。

◆広報文②(92字)

「マンガの神様」と称された手塚治虫の生涯と業績を、手塚が生み出したキャラクターや作品などから紹介する展覧会です。公害を経験した四日市市で、手塚治虫が未来へ託したメッセージを読み解きます。

◆広報文③(168字)

「マンガの神様」と称された手塚治虫の生涯と業績を、手塚が生み出したキャラクターや作品などから紹介します。手塚作品には人間や生命の尊さに関わる深いテーマやメッセージが込められており、時代の移り

変わりとともに新たな事態に直面する現在においても、普遍的な輝きを放っています。公書を経験した四日市で、手塚が未来へ託したメッセージを読み解きます。

◆資料点数

約 200 点

2. 展覧会の構成

第1部 手塚治虫の誕生

手塚治虫は 1928(昭和3)年 11 月3日、大阪府豊中市(旧・豊能郡豊中町)で、父・粂(ゆたか)、母・文子(ふみこ)の長男として生まれました。現在は、文化の日と呼ばれるこの日は、当時は明治節と呼ばれたことから、その一字をとって「治」と名付けられました。

5 歳の時に宝塚に引っ越し、24 歳で上京するまでの約 20 年間で兵庫県宝塚市(旧・川野辺郡小浜村鍋野)で過ごしました。当時の宝塚はモダンな歌劇の街として全国的に知られる一方で、豊かな自然にも恵まれていました。手塚はこの街で友人たちと昆虫採集を楽しんだり、家族と宝塚歌劇や映画を観たりしながら少年時代を過ごしました。しかし、一方で戦争というつらい体験をしたのもこの宝塚時代でした。幼い頃からの様々な経験は、後に手塚の創作に大きく影響していきます。

このコーナーでは、宝塚時代の手塚の足跡をたどりながら、手塚治虫を育んだものを本人のコメントと資料により紹介いたします。

第2部 作家・手塚治虫

手塚治虫は 17 歳でデビューを果たしてから 60 歳でこの世を去るまでの 43 年間にわたり、第一線の作家として活躍しつづけました。そんな手塚治虫には作家としての二つの顔がありました。ひとつは「マンガ家」そして、もうひとつは「アニメーター」の顔です。

マンガ家・手塚治虫は、より迫力のある構図や、ストーリー性を感じさせるマンガを目指し「ストーリーマンガ」と呼ばれる新たなマンガ表現の確立に努めました。また、アニメーター・手塚治虫は、国産初の 30 分テレビアニメシリーズの放送を成功させるなど、アニメーション界における「不可能」に挑戦し、新たな可能性を広げました。そして、その一方でアニメーションの「動き」の研究にも力を注ぎ、数々のアニメーションを制作しました。従来の常識にとらわれることなく、新しいアイデアを作品に取り込んでいくことが、作家・手塚治虫の基本的な姿勢でした。

このコーナーでは、マンガとアニメーションの代表的な作品を展示すると共に、手塚の制作手法やその効果等もあわせてご紹介いたします。

第3部 手塚治虫のメッセージ

手塚治虫はマンガやアニメーションの物語の中に、読者へのメッセージを込めていました。その思いを手塚自身、以下のように述べています。

“僕は今までたくさん漫画を描いてきましたけれど、漫画にはお話がついています。そのお話はいい加減なお話じゃなくて、できたら僕がこういうことを子どもたちに訴えたいな、と思う一つのテーマみたいなのがあって、そのテーマを僕はその漫画の中に入れたわけ。だからそのテーマを読んだ子どもたちは、読者が「わっ、手塚治虫ってこういうことを言いたかったのか、この漫画はこういうことを言いたかったのか」と受け取ってくれる、これが僕は漫画の一番大きな強い点だと思うんです。

—1988(昭和63)年2月13日「朝日賞受賞記念講演(会場:有楽町朝日ホール)」より—

このコーナーでは、手塚治虫が作品に込めたメッセージの数々を作品とともに、ご覧いただきます。

特別パネル展示「ふたりのピノコ」

代表作「ブラック・ジャック」の中から公害をテーマとした本作品の一部をパネルにて紹介いたします。

3. 関連行事について

①ギャラリートーク(当日受付)

日時:令和7年9月20日(土)、11月9日(日) 各日14:00～(30分程度)

講師:篠 昌志(当館学芸員)

場所:4階 特別展示室

参加費:無料(ただし、当日の観覧券又は半券が必要です)

内容:本展担当学芸員が展覧会の見どころをお話しします。

②上映会(事前申込)

日時:10月11日(土) 10:00～11:30、14:00～15:30

場所:1階 講座室

参加費:無料(ただし、当日の観覧券又は半券が必要です)

定員:各回70名(応募多数の場合抽選)

内容:アニメ「ブラック・ジャック」の中から、公害をテーマにした2作品を上映します(各回とも同内容)。

③ベビーカーDAY(事前申込不要)

日時:9月21日(日)、10月19日(日)、11月16日(日) 各日9:30～12:00

対 象:乳幼児と保護者

場 所:館内

参加費:無料(展覧会への入場は別途当日の観覧券が必要です)

内 容:子育て世代大歓迎!この時間は声を出しても泣いても大丈夫。お子さんと一緒に、展覧会をご覧ください。もちろん一般のお客さんも大歓迎です。館内が少しにぎやかな日になりますが、ご了承ください。※館内に授乳室・救護室の用意があります。

※事前申込制のイベントの申込方法

開催日の1カ月前から 10 日前(必着)までに、申込フォームまたはハガキで、イベント名・名前(フリガナ)・電話番号をご記入のうえ下記へお送りください。応募多数の場合は抽選とさせていただきます。

[申込フォーム]右のQRコードまたは当館ホームページ「イベントのお申し込み」より

[ハガキ]〒510-0075 四日市市安島1-3-16 四日市市立博物館 企画普及係



◆広報用画像

画像データをご希望の場合は、当館までメールにてご連絡ください。

【掲載条件】

- ・画像の掲載は、本展覧会の広報目的の場合に限ります。
- ・画像はトリミング不可です。
- ・画像掲載の際には、キャプションまたはクレジットを明記してください。

画像



クレジット:「鉄腕アトム」©手塚プロダクション

◆担当

四日市市立博物館 企画普及係 篠

〒510-0075 三重県四日市市安島一丁目3番16号

TEL:059-355-2702 FAX:059-355-2704

E-mail: hakubutsukan@city.yokkaichi.mie.jp